

## 教授の呟き

### 第31回



# 話せば楽な、国際化

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

#### ● ● 聞き取れないなら、話せばいい

約10年前のことだが、マニラに赴任するときにパーティーの心得を伝授された。

「慣れない英語を聞き取ることは難しい。だからパーティーの前に話題を一つ用意しておき、人に会ったら直ちにその話をする。話し終わったら、別の人をつかまえて同じ話をする。これを繰り返していれば、英語を聞かなくても済む。『主張のない人間は、考えのない人間』と受け取られるから、話すことは重要だ」というものであった。

聞くと分からぬ英語でも、話すのであれば準備も予習もできる。相手の表情を見ていれば反応が分かるので、意思の疎通も図れる。このアドバイスは、とても役に立った。

#### ● ● 日本企業の海外進出と撤退

本格的な国際化時代となり、アジアをはじめ多くの国々に日本企業が進出し、グローバル・サプライチェーンを形成している。しかし、海外から撤退している例も意外に多い。

2003年のデータによれば、年間約600法人が進出し、約300法人が撤退している。この事実をなかなか知り得ないのは、派手に出かけて地味に帰ってくる面があるからだろうか。

基本的なパターンは、低いコストや拡大する市場を期待して進出し、コスト増ないし市場縮小やリスクの

増大で撤退となる。

市場動向は仕方ないとしても、コストについては「生産コストは低いものの、ロジスティクス・コストはそれほど低くはない」こともある。品質や納期などに問題が生じて、サプライチェーンが途切れることもあるだろう。法制度の違いもあれば、労使紛争や契約問題もあるし、現地の文化や慣習になじまないこともある。(1)

#### ● ● 「政冷経熱」の理解は正しいか？

最近、東アジアでは反日運動が続いた。

「民主的なデモ（？）」そのものも疑問であるが、マスコミが書く「政冷経熱」という表現は本当なのだろうか。表面上はそう見えるかもしれないが、法制度や文化的な違いですら摩擦が起きるのに、政治的な対立が経済と無関係とは考えにくい。

本年3月には、ある国で虚偽の報道のために日本ビールの不買運動が起きたし、4月には、日本料理店がデモ隊に襲われた。その昔には、日本から輸入した電気製品をハンマーでたたいた国もあった。

しかし経験的には、どの国にも話せば立場を理解してくれる人はいる。毎年参加している国際協議の場で、言いにくいことを思い切って話してみたところ、「やっと日本の事情が分かった」とかえって感謝されたこともあった。相互理解の不足が混乱の要因になるとすれば、丁寧に説明し



て理解を求める必要がある。

### 危ぐされる日本のノウハウ流出

一方で良好な政治関係であっても、回り回って経済に影響を与えることもある。

最近では、定年後の熟練技術者が外国の企業に雇われて、わが国の貴重なノウハウが流出することもあると聞く。工場が海外に移転したため、国内の生産現場におけるロジスティクス技術の退化を心配する専門家もいる。発展途上国向けに作成されたロジスティクス研修用の英語版の優れたテキストが、日本語版として国内で出版される機会は少ない。

日本が技術援助している発展途上国を訪れたとき、親しい現地スタッフにこっそり耳打ちされた。

「日本チームはパソコンのハードやソフトからデータまで置いていってくれるが、他国はすべて本国に持ち帰る。日本は、本当に今までいいのか？」

定年制度や生産現場の海外移転は必要だろうし、援助先の要望を聞くことも良い。しかし長期的に考えれば、国内でのノウハウ維持や技術の継承も重要なはずである。

### 美德のゆくえ

アジアの東端に位置し、流れ来るものを受け入れてきた歴史の中で、他の言い分を聞き届けることには慣れていても、自らを主張できない



文化なのかもしれない。

「日本の悪い友人は「日本は文化のゴミ箱、後ろは太平洋だからね」「辺境に住むヤツは逃げてきたヤツだから、もともと気は弱いし、主張なんかできないのさ」と、すねて皮肉を言う。

国情への理解、国際協力、技術援助など、それぞれの言葉と行動は美しい。評価もされるべきである。しかし、それだけでは通用しない部分もあるだろう。

パーティーでも話を続けていれば、次第にこちらの気持ちや事情も理解してくれるし、互いの違いが分かるほど親しくなる機会も増えるように思う。もしも「黙っていれば、イエス」と受け取られるのであれば、ときには自らを主張することも必要と思うのである。

(1) 李志明・苦瀬博仁：「ロジスティクスからみた日本企業の海外進出と撤退の要因」、日本物流学会誌、第13号、日本物流学会、2005

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

**苦瀬博仁**

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授（併任）。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）<http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

